

## <資 料>

- 資料1: 群馬県立県民健康科学大学大学院診療放射線学研究科修士課程入学状況
- 資料2: 診療放射線学系大学院の設置状況（平成27年4月現在）
- 資料3: 群馬県立県民健康科学大学大学院診療放射線学研究科修士課程入学者の居住地
- 資料4: 本学大学院修士課程修了者に対する博士課程設置に関するアンケート調査  
（アンケート用紙）
- 資料5: 本学大学院修士課程修了者に対する博士課程設置に関するアンケート調査  
（アンケート結果）
- 資料6: 群馬がん治療技術地域活性化総合特区の概要  
（PROJECT 16 高度がん診断・治療技術を担う診療放射線技師の育成）

資料1 群馬県立県民健康科学大学大学院  
診療放射線学研究科  
修士課程入学状況

年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
H27	3	4	4	4	3
H26	3	4	4	3	3
H25	3	3	3	3	3
H24	3	3	3	3	3
H23	3	5	5	3	3
H22	3	5	5	3	3
H21	3	6	6	3	3

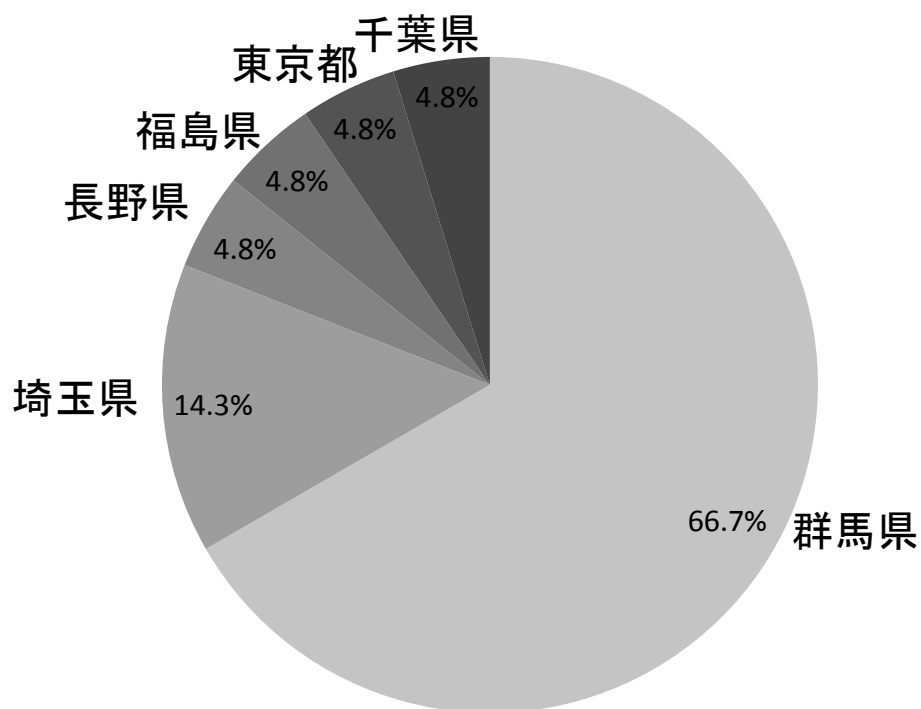
# 資料2 診療放射線学系大学院の設置状況 (平成27年4月現在)

地域	番号	設置区分		大学名	所在地	大学院設置状況			
						修士課程等	設置年	博士課程	設置年
北海道・東北	1	国		北海道大学大学院 保健科学院	北海道札幌市	博士前期課程	H20	博士後期課程	H22
	2	国		弘前大学大学院 保健学研究科	青森県弘前市	博士前期課程	H17	博士後期課程	H19
	3	国		東北大学大学院 医学系研究科	宮城県仙台市	博士前期課程	H20	博士後期課程	H22
関東・信越	4	公		茨城県立医療大学大学院 保健医療科学研究科	茨城県稲敷郡阿見町	博士前期課程	H13	博士後期課程	H22
	5	私		国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科	栃木県大田原市	修士課程	H11	博士課程	H13
		公		<b>群馬県立県民健康科学大学大学院 診療放射線学研究科</b>	<b>群馬県前橋市</b>	<b>修士課程</b>	<b>H21</b>	<b>非設置</b>	
	6	私		駒澤大学大学院 医療健康科学研究科	東京都世田谷区	修士課程	H19	博士後期課程	H22
	7	公		首都大学東京大学院 人間健康科学研究科	東京都荒川区	博士前期課程	H14	博士後期課程	H16
	8	私		帝京大学大学院 医療技術学研究科	東京都板橋区	修士課程	H21	博士課程	H21
	9	私		北里大学大学院 医療系研究科	神奈川県相模原市	修士課程	H10	博士課程	H10
	10	国		新潟大学大学院 保健学研究科	新潟県新潟市	博士前期課程	H16	博士後期課程	H19
北陸・東海	11	国		金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科	石川県金沢市	博士前期課程	H14	博士後期課程	H16
	12	国		名古屋大学大学院 医学系研究科	愛知県名古屋市	博士前期課程	H14	博士後期課程	H16
	13	私		藤田保健衛生大学大学院 保健学研究科	愛知県豊明市	修士課程	H15	博士後期課程	H27
	14	私		鈴鹿医療科学大学大学院 医療科学研究科	三重県鈴鹿市	修士課程	H8	博士後期課程	H11
近畿	15	国		大阪大学大学院 医学系研究科	大阪府吹田市	博士前期課程	H10	博士後期課程	H12
中国・四国	16	国		岡山大学大学院 保健学研究科	岡山県岡山市	博士前期課程	H15	博士後期課程	H17
	17	私		広島国際大学大学院 医療・福祉科学研究科	広島県東広島市	博士前期課程	H15	博士後期課程	H17
	18	国		徳島大学大学院 保健科学教育部	徳島県徳島市	博士前期課程	H18	博士後期課程	H20
九州	19	国		九州大学大学院 医学系学府	福岡県福岡市	博士前期課程	H19	博士後期課程	H21
	20	国		熊本大学大学院 保健学教育部	熊本県熊本市	博士前期課程	H20	博士後期課程	H22

※ 修士課程を設置する大学院のうち群馬県立県民健康科学大学大学院のみが博士後期課程を設置していない。

### 資料3

## 群馬県立県民健康科学大学大学院 診療放射線学研究科 修士課程入学者の居住地



# 資料4 本学大学院修士課程修了者に対する博士課程設置に関するアンケート調査(アンケート用紙)

H26.3.5

## 大学院博士課程設置に関するアンケート (大学院修了生)

診療放射線学研究科博士課程設置ワーキンググループ

群馬県立県民健康科学大学大学院診療放射線学研究科では、修士課程に続く博士課程の設置を検討しています。本学大学院修士課程修了生（修了予定者を含む）の皆様のご意見をお聞かせください。

I. あなたご自身についてお伺いします。答えられる範囲でお答えください。

問1. 大学院修士課程の修了年をお知らせください。

平成 \_\_\_\_\_ 年3月修了

問2. 診療放射線技師として勤務していますか。

1. 勤務している
2. 勤務していない → 問5にお進みください。

問3. 勤務先の病床数をお知らせください。

1. 0
2. 1～19
3. 20～99
4. 100～199
5. 200～399
6. 400～

(差し支えなければ勤務先名をお知らせください。勤務先名: \_\_\_\_\_)

問4. 勤務先の所在地（都道府県名）をお知らせください。

勤務先の都道府県名: \_\_\_\_\_

問5. 興味がある分野をお知らせください。(複数回答可)

1. 放射線画像診断
2. 放射線治療
3. その他 ( \_\_\_\_\_ )

問6. 大学院修了後に論文発表や学会発表などの実績を有する場合は、業績を列記してください。(書式自由)

問7. 大学院修了後に学会役員などの社会貢献実績がある場合は記載してください。

II. 大学院博士課程設置についてのご意見をお聞かせください。答えられる範囲でお答えください。

問 8. 大学院博士課程の設置は必要だと思いますか。

1. 非常に必要だと思う
2. 少し必要だと思う
3. わからない・どちらでもない
4. あまり必要だと思わない
5. 全く必要だと思わない
6. その他 ( )

問 9. あなたは、本学に限らず大学院博士課程への進学を希望していますか。

1. 希望する
2. 状況が許せば希望する
3. どちらともいえない
4. 希望しない
5. その他 ( )

問 10. 本学に大学院博士課程を設置した場合、あなたは本学への進学を希望しますか。

1. 希望する
2. 状況が許せば希望する
3. どちらともいえない
4. 希望しない
5. その他 ( )

問 11. あなたはどのような博士課程に魅力を感じますか。自由にお書きください。

問 12. 博士課程設置について、ご意見があれば自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙の記載が済みましたら同封の返信用封筒に入れてご返信ください。返信の際、差出人名は記載しなくて結構です。

今後の皆様のご活躍を期待しております。

# 資料5 本学大学院修士課程修了者に対する博士課程設置に関するアンケート調査(アンケート結果)

H26.9.17

「本学大学院修士課程修了者に対する博士課程設置に関するアンケート」集計結果

診療放射線学部博士課程設置ワーキンググループ

○配布数 10、回収数 10、回収率 100.0%

○調査実施時期：H26 年 3 月

## 1. 回答者について

### 1. 性別

1. 男性	8	80.0%
2. 女性	2	20.0%
合計	10	100.0%

### 2. 大学院修士課程の修了年

			(対象者)
1. 平成 23 年 3 月	3	30.0%	3
2. 平成 24 年 3 月	2	20.0%	2
3. 平成 25 年 3 月	3	30.0%	3
4. 平成 26 年 3 月	2	20.0%	2
合計	10	100.0%	10

### 3. 診療放射線技師としての勤務

1. 勤務している	10	100.0%
2. 勤務していない	0	0.0%
合計	10	100.0%

### 4. 勤務先の病床数

1. 0	2	20.0%
2. 1～19	0	0.0%
3. 20～99	0	0.0%
4. 100～199	0	0.0%
5. 200～399	3	30.0%
6. 400～	5	50.0%
合計	10	100.0%

5. 勤務先の所在地

1. 群馬県	4	40.0%
2. 埼玉県	2	20.0%
3. 長野県	1	10.0%
4. 茨城県	1	10.0%
5. 東京都	1	10.0%
6. 千葉県	1	10.0%
合計	10	100.0%

6. 興味がある分野（複数回答可）

1. 放射線画像診断	8	80.0%
2. 放射線治療	3	30.0%
3. その他	3	30.0%

\* 「3. その他」：マネジメント、放射線計測、放射線被ばく

7. 大学院修了後の論文発表や学会発表の業績（自由記述）

○A氏（H23.3 修了）

学会発表4件（H24.3、H24.11、H26.9、H26.10）（1件は国際学会）

○B氏（H23.3 修了）

学会発表3件（H24.2、H24.6、H24.10）

○C氏（H24.3 修了）

学会発表1件（H24.4）

○D氏（H25.3 修了）

論文発表2編（H25.4、H26.2）

○E氏（H25.3 修了）

学会発表2件（H25.8、H25.10）

○F氏（H26.3 修了）

学会発表1件（H26.6）

（注：回答スペースが限られていたことから代表的業績のみと考えられる。）

8. 大学院修了後の学会役員等社会貢献実績（自由記述）

○G氏（H25.3 修了）

日本放射線技術学会代議員、日本放射線技術学会関東部会理事

○H氏（H25.3 修了）

日本放射線技術学会関東部会理事、長野県放射線技師会中信支部理事

○I氏（H26.3 修了）

埼玉県診療放射線技師会学術委員



## II. 大学院博士課程設置について

### 1. 大学院博士課程の設置は必要だと思うか。

1. 非常に必要だと思う	7	70.0%
2. 少し必要だと思う	2	20.0%
3. わからない・どちらでもない	1	10.0%
4. あまり必要だと思わない	0	0.0%
5. 全く必要だと思わない	0	0.0%
6. その他	0	0.0%
合計	10	100.0%

### 2. 本学に限らず大学院博士課程への進学を希望しているか。

1. 希望する	4	40.0%
2. 状況が許せば希望する	4	40.0%
3. どちらともいえない	2	20.0%
4. 希望しない	0	0.0%
5. その他	0	0.0%
合計	10	100.0%

### 3. 本学に大学院博士課程を設置した場合、本学への進学を希望するか。

1. 希望する	3	30.0%
2. 状況が許せば希望する	4	40.0%
3. どちらともいえない	3	30.0%
4. 希望しない	0	0.0%
5. その他	0	0.0%
合計	10	100.0%

(注：回答者の6割が他県在住者のため「3. どちらともいえない」が比較的多かったと考えられる。)

#### 4. どのような博士課程に魅力を感じるか。(自由記述)

##### ○教育に関して

- ・ 社会人履修生にとって大学院選びは、勤務状況を配慮していただけることが一つのポイントになります。私の時には夕方からの時間帯で配慮していただきましたが、土日などの履修も考慮いただくと助かると思います。また、博士課程と言えはいろいろな意味で高い知識レベルが必要と思いますが、最近の都内の大学病院では職場責任者に博士課程の履修を求めるようです。マネジメントを意識した教育課程に魅力を感じるのではないのでしょうか。
- ・ 指導力が身につくカリキュラム。
- ・ 仕事と両立できるカリキュラム。
- ・ 教員とのコミュニケーションの良い関係が築ける環境。
- ・ 気軽に様々な先生と相談できる環境。
- ・ 診療放射線学科（診療放射線技師養成課程）の上にある博士課程に魅力を感じる。

##### ○研究に関して

- ・ 社会人として病院勤務をしながらの研究では、自施設の限られた設備で研究を行うことになると思います。装置の開発を兼ねることはなかなか難しいです。病院勤務では、臨床での情報が得やすいというメリットもありますが、先鋭的な研究というよりは、レトロスペクティブにデータを集めることになると思います。診療放射線技師だけでは、臨床データを新しく取得することには制限があります。よって、医学部付属病院のような研究機関にて、医師を交えた研究が行える環境に魅力を感じます。
- ・ 広い視野を持つ放射線画像診断専門医もしくは放射線治療専門医が存在する。
- ・ 海外での発表や英語論文投稿の際に良き指導者となる高い語学力を有する教員が存在する。
- ・ 同じ研究班（ゼミ）内だけでなく、他の教員・大学院生とも交流の場がある。
- ・ 学生は進捗状況を随時報告し、教員は常にその状況を把握しているような環境作り。
- ・ 放射線学、工学等について研究できること。
- ・ 昼間、働いていても研究を進めることができる環境。
- ・ 通学しやすく、自身の研究を進める環境が整っていること。
- ・ 継続して研究をしていくことが出来る環境であること。

#### 5. 博士課程設置に関する自由な意見。(自由記述)

- ・ 博士課程が出来ることにより、群馬県内の診療放射線技師全体のレベルが上がり、結果、群馬県民の皆様に、より高度で洗練された診療放射線技術を還元することができ、群馬県民の皆様の健康維持に貢献できるものと考えられます。貴大学院の修了生、ならびに在学生にとっては、博士課程が出来ることで、学習意欲・研究意欲の向上に繋がっていくものと考えますので、是非、博士課程が出来ることを期待しています。
- ・ 群馬県に診療放射線技師のための博士課程が出来ることは臨床で働きながら研究を行っているひとにとっては非常に魅力的であると思う。ぜひ設置してもらえたと強く思う。
- ・ 家庭のある社会人として意見させていただきます。学費の問題もあるのですが、一番の問題は仕事との両立です。定期的に平日に休みをとることはかなり厳しいです。また、勤務後に大学に行くにはエリアが限定されてしまいます。修士課程在学時は、各先生方に助けていただき、休日に講義を行っていただきましたが、個人交渉で（先生方、他の生徒）と日程を調整するのではなく、休日に講義を予定していただけると助かります。もしくは、メールを利用した通信制とするのもありではないでしょうか？
- ・ 修士課程以上に修学時間に配慮が必要（夜間＋土日祝日）。
- ・ 博士課程の設置は大学院修士課程設立時からの目標であったことと思います。是非先生方のお力で実現していただき、本学から博士を世の中に輩出できることを祈願しております。
- ・ 健科大では大変お世話になり、教授をはじめとする講師の皆さんが大変良かったです。ぜひ健科大に博士課程を設置していただきたいです。
- ・ 博士課程設置において私が一番に望むことは、志の高い人材の選定とマネジメント能力のある教員の存在である。診療放射線技師の社会的地位を確立する上でも、高度な専門知識・技術を有する学位を取得した技師の増加は医療界に良い影響をもたらすのは間違いない。しかし、カリキュラムはそれぞれ各大学によって異なり、各担当教員で学生に何を不得て修了してほしいかは違っている。すべて学生次第だと言ってしまうと簡単である。例えば、社会人入学だからといって、すべての人が明確な研究テーマを持って入学するわけではないように思う。なかには学位のある種の資格くらいにしか考えず、修了さえ出来れば良いなどと考えている人もいる。学力を重視するよりもやる気のある学生を呼び込み、彼らを優秀な研究者または医療人となるよう導く、もしくはその模範となる教員が必要であると思う。

# 資料6

## 群馬がん治療技術地域活性化総合特区の概要 (PROJECT 16 高度がん診断・治療技術を担う 診療放射線技師の育成)

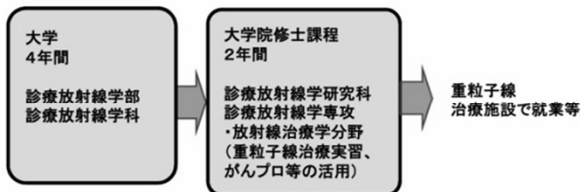
### 16. 高度がん診断・治療技術を担う診療放射線技師の育成

群馬県立県民健康科学大学、群馬大学医学部

事業目的: 多様化・高度化する画像診断や放射線治療に対応するため、大学院課程に人材育成プログラムを開設、重粒子線治療に従事する診療放射線技師等を育成

#### 事業概要

【重粒子線治療に従事する診療放射線技師の育成】



群馬県立県民健康科学大学



大学院内に特別コース、特別養成課程を設置することについて検討中。また、群馬大学と協議を実施。

【学際的放射線技師の育成】

